

国語 第6学年 文字の移り変わり

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある6月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「文字の形が変わると使い方にどんな違いがあるか」を問い、文字の変化を資料で比べ、形と用途の関係を説明する。文字の変化の説明カードの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ウ	ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)オ	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、仮名と漢字の使い方に注意し、学習した語の表記を確かめている。文字の由来や変化を資料で確かめ、形や意味との関係を説明する。思考・判断・表現では、文字の変化を資料で比べ、形と用途の関係を説明する。交流や試行の前後を比べ、文字の変化の説明カードを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①仮名と漢字の使い方に注意し、学習した語の表記を確かめている。文字の由来や変化を資料で確かめ、形や意味との関係を説明している。 （〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(3)ウ）	①「書くこと」において、学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。 （B(1)オ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○文字の変化を資料で比べ、形と用途の関係を説明する。 ○考えた理由を交流し、文字の変化の説明カードを仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態① は関連する学習の記録も合わせて見る。



本時の案

本時の目標：文字の変化を資料で比べ、形と用途の関係を説明するとともに、カードに書いた語句や説明を読み直して修正できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「文字の形が変わると使い方にどんな違いがあるか」 【めあて】文字の由来や変化について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・形の違いには使われた時代も関係していた。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。古い形を現在の書字の誤りと考える姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 文字の変化を資料で比べ、形と用途の関係を説明する。 3 書いたものを読み返し、「文字の形が変わると使い方にどんな違いがあるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○調べた内容を記す際は、仮名や漢字、送り仮名などの表記も見本と照らして確認する。 ○学習した語や説明をカードに書き、見本や資料と照らして表記・言い方を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・形の違いには使われた時代も関係していた。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	時代や用途を添えた資料を並べて比較する。知識・技能では、仮名と漢字の使い方に注意し、学習した語の表記を確認している。文字の由来や変化を資料で確認、形や意味との関係を説明している。 この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確認する。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確認して直している。（B(1)オ）（学習カードの修正前後）
まとめ （ 分）	5 文字の変化の説明カードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】文字は、形や使い方を見本と比べ、どの部分を確認するかを決めて練習する。 6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。文字の形が変わると使い方にどんな違いがあるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（文字の変化の説明カードと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には文字の由来や変化を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に文字の変化の説明カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、古い形を現在の書字の誤りと考えることである。時代や用途を添えた資料を並べて比較する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

文字の変化の説明カード 「文字の形が変わると使い方にどんな違いがあるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。時代や用途を添えた資料を並べて比較するための補助欄も用意する。
見直しの理由を記すカード 初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_6_202412.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606_mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

